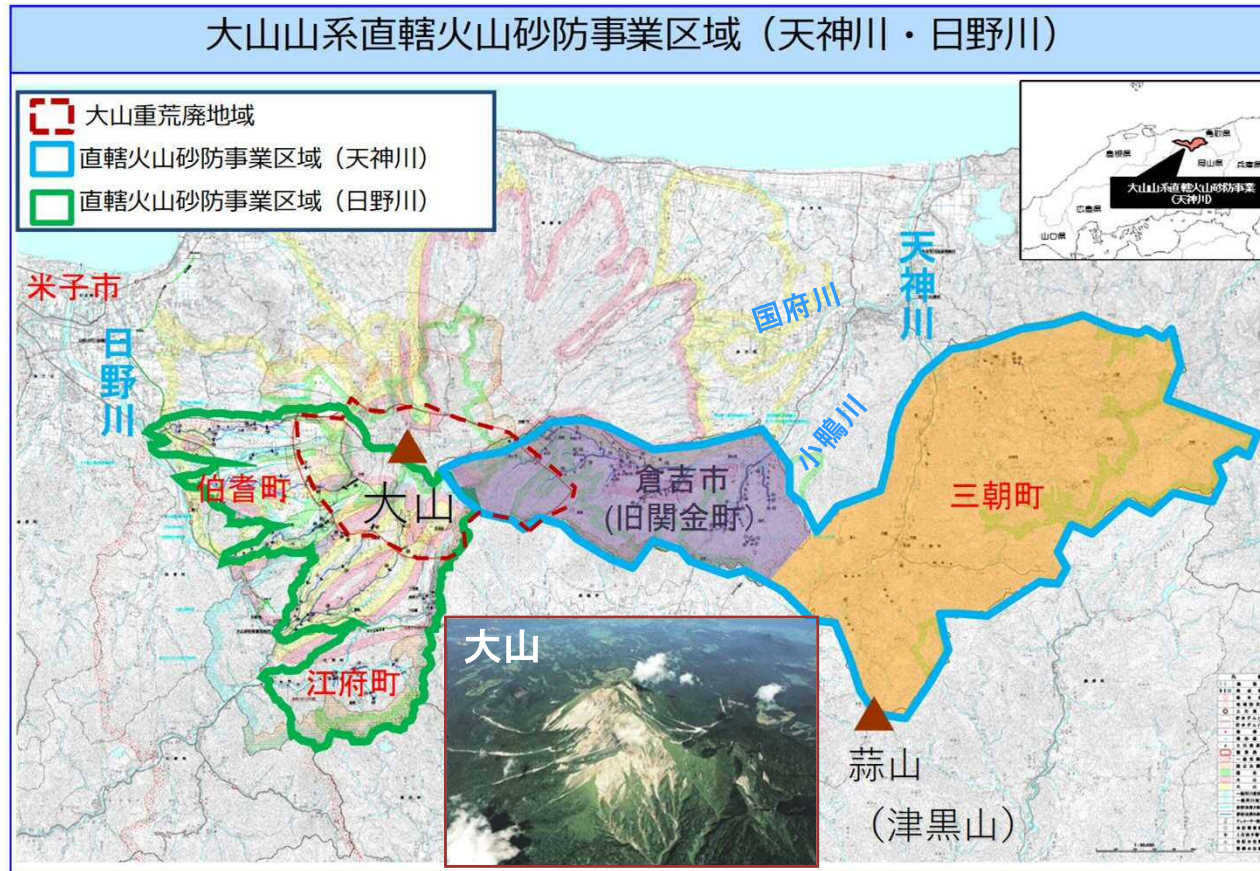


3-1 大山山系直轄火山砂防事業の概要1

■大山山系直轄火山砂防事業（天神川水系砂防）の概要1

- 天神川は鳥取県中部に位置し、中国山地の大山（弥山）と蒜山（津黒山）を源流とし、日本海に注ぐ流域面積490km²、幹線流路延長32kmの一級河川である。
- 小鴨川上流域には大山があり、その源頭部は地質が脆弱で荒廃が著しく、土砂生産・流出を頻繁に繰り返している。
- 直轄火山砂防事業区域（天神川）は、大きく西部の小鴨川流域、東部の天神川流域に分かれ、過去の特筆すべき災害としては、直轄化の契機となった昭和9年の室戸台風、昭和34年の伊勢湾台風及び天神川本川への事業拡大の契機となった平成10年台風10号が挙げられる。

■砂防区域図



■過去の土砂災害



▲室戸台風(1934(昭和9)年)
倉吉市関金町関金宿



▲台風10号(1998(平成10)年)
東伯郡三朝町上西谷



▲台風10号(1998(平成10)年)
東伯郡三朝町上西谷



▲台風10号(1998(平成10)年)
東伯郡三朝町上西谷

3-2 大山山系直轄火山砂防事業の概要2

倉吉河川国道事務所

■大山山系直轄火山砂防事業（天神川水系砂防）の概要2

- 大山山系における天神川流域の砂防工事は本川筋を含む7溪流で1932(昭和7)年に鳥取県により農村匡救事業（不況による農山村救済事業）として開始された。その後、昭和9年9月の室戸台風を契機に、天神川改修工事が直轄で施工されることになり、引き続いて昭和11年6月に直轄砂防区域が告示され、被害の大きかった小鴨川筋において砂防工事が開始された。
- 平成10年10月の台風10号は天神川本川上流域(三朝町)に多大な被害を与えた。このため、平成13年1月から三朝町においても直轄砂防事業を実施することとなり、流域面積318.59km²で砂防堰堤、流木対策工、床固工、溪流保全工を実施している。
- 直轄火山砂防事業区域（天神川）の整備対象土砂量に対する進捗率は小鴨川流域が約54%、天神川流域は12%程度という状況である。



整備土砂量の現況（令和6年度末時点）

	直轄着手年度	流域面積(km ²)	全体整備対象土砂量(H23時点)(千m ³)	整備土砂量(千m ³)	進捗率
小鴨川	S11年度	87.8	4,082	2221	54.5%
天神川	H12年度	233.3	7,597	922	12.2%
直轄砂防 計		321.1	11,679	3,143	26.9%

整備対象土砂量（直轄砂防）11,679千m ³				
中期計画開始前の整備済土砂量 2,670千m ³	中期計画整備土砂量 1,442千m ³		残りの整備対象土砂量 7,567千m ³	
	整備済土砂量 474千m ³	整備中土砂量 16千m ³	今後の整備土砂量 952千m ³	

天神川砂防 中期整備計画（平成23年策定）

	整備堰堤基数	改築堰堤
中期整備計画 (今後30年間、H24～R23)	26基 <5基>	1基

※表中の<>内は令和6年度末時点の完成堰堤数

3-3 天神川水系直轄砂防事業

土砂災害から暮らしを守る

倉吉河川国道事務所

■天神川水系直轄砂防の土砂災害対策

2025(R7)年度事業費：665百万円【事業推進】

- 大山源頭部周辺は浸食されやすい地質のため、土砂災害が発生する可能性の高い地域であるため、土石流による直接の土砂災害や、土砂流出に伴う下流域での河床上昇による洪水氾濫を防ぐことを目的に事業実施している。
- 平成30年7月豪雨等の近年災害を踏まえ実施した重要インフラの緊急点検結果に基づき、土砂・流木対策として透過型砂防堰堤の整備等を推進している。
- 2025(令和7)年度は、砂防堰堤の整備を推進する。

■事業箇所

とうはくぐん みささちよう あながも

鳥取県東伯郡三朝町穴鴨地先ほか

■期待される整備効果

砂防堰堤等の整備により、土砂や流木を捕捉し、土石流による直接の土砂災害が防がれる。

また、天神川下流の市街地において、土砂流出に伴う河床上昇による洪水氾濫の防止・軽減を図る。

木地山砂防堰堤(R2完成)



▲土砂・流木補足状況
(令和5年8月台風7号)

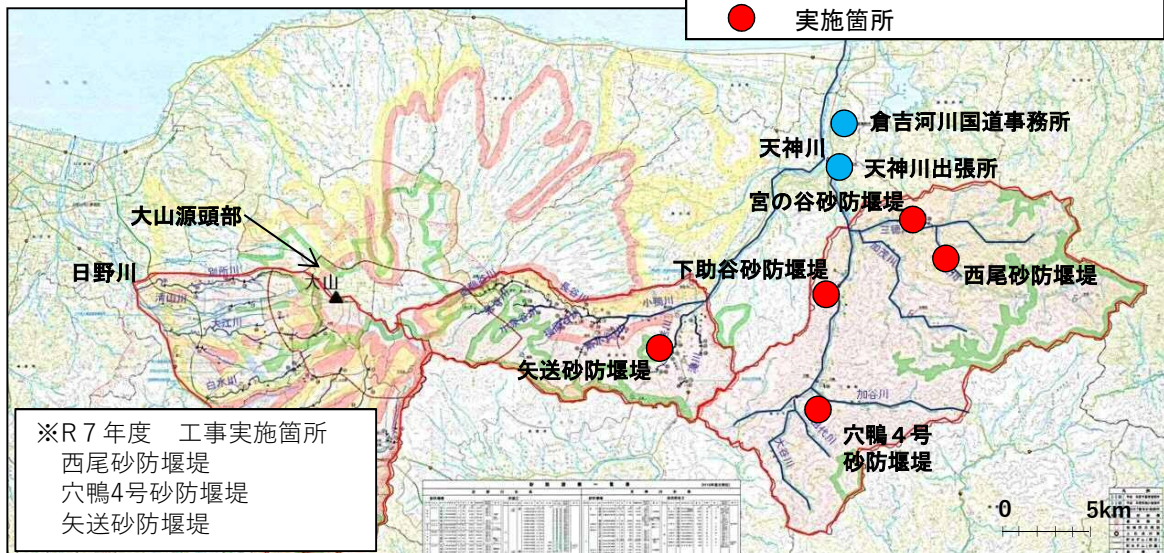
既設砂防堰堤の効果

穴鴨3号砂防堰堤(H25完成)



■2025(令和7)年度事業実施箇所

- 大山山系直轄砂防事業区域
- 実施箇所



※R7年度 工事実施箇所
西尾砂防堰堤
穴鴨4号砂防堰堤
矢送砂防堰堤



▲穴鴨4号砂防堰堤(施工中 R7.1)



▲西尾砂防堰堤(施工中 R7.1)